様式4

大学等名　松本大学松商短期大学部

令和6年度　自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

松本大学自己点検・評価委員会

（責任者名）浜崎　央　　（役職名）経営情報学科長・教授

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本プログラムの授業科目を含め、すべての授業科目の履修状況はLMSにより把握され、その結果は履修登録確定後に教務委員会において確認されている。本プログラムの授業科目も含めて、極端に履修者数が多いまたは少ない科目については、その原因等の議論がなされ、今後の対応等が検討されている。また、同じLMSにより毎週の学生の出欠席状況や成績等も把握できるため、修得に向けた状況について点検・評価ができる体制が整っている。令和6年度については、本プログラムの授業の履修者数40人のうち、単位を取得し本プログラムを修得できた学生は31人（77.5%）であった。修得できなかった学生9人のうち、約半数の4人は欠席超過であるため、授業の初期の段階でよりモチベーションを高めるような内容が必要だと考えらえれる。また、残りの5人に関しても質疑応答を丁寧に行うなどよりわかりやすい授業を心がけるようにすることで、修得できるようにすることが望まれる。
学修成果	本プログラムの授業において得られる学修成果はシラバスにおいて明記されており、知識としての学修成果は学期末の筆記試験において評価しているのに加えて、具体的なデータを使った分析を行う課題によって主体的にデータ分析ができることを評価しており、単位の修得によってその学修成果の達成は保証されていると考えられる。また、学期末に授業アンケートを実施しており、その結果は、期ごとに分析され、教授会での報告やFD・SD研修会における意見交換等をとおして授業改善に結び付けている。本プログラムにおける授業においても、同様にアンケート結果をとおしてプログラムの評価・改善につなげていくことができている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本学では一部の科目を除いてすべての科目で学期末に授業アンケートを実施している。その中で「あなたはこの授業において、シラバスに示されている学修到達目標をどのくらい達成できましたか」という設問があり、この回答によって学生の内容の理解度が判断できると考えられる。令和6年度に実施した本プログラムの授業においては、この設問に対する回答として、「達成できた」の回答が48%、「まあまあ達成できた」の回答が48%、「あまり達成できなかった」が0%、「全く達成できなかった」の回答が3%と、履修者のほとんどの学生が達成できたと感じていたことがわかる。今後も同様の理解度が得られるように授業に取り組むことが望まれる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	学期末の授業アンケートの中で、「授業に意欲的に取り組めたか」や「教員の熱意・意欲を感じたか」という設問があり、この回答によって後輩等他の学生への推奨度が測られると考えられる。令和6年度に実施した本プログラムの授業については、「授業に意欲的に取り組めたか」の設問に対して、「意欲的に取り組めた」「まあまあ取り組めた」の回答が96%であり、また、「教員の熱意・意欲を感じたか」の設問に対しては「とても感じた」「まあまあ感じた」の回答が100%と全員が熱意や意欲を感じた授業だったことがわかる。そのため後輩等他の学生の推奨度も高いと予想している。今後も同様の結果が得られるように授業に取り組むことが望まれる。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムの授業は令和6年度に新規に開講した科目のため、履修者数や履修率向上に向けた計画の達成度や進捗状況について記載することはないが、選択科目において40名の履修者は本学の授業としては平均的な履修者数であるといえる。今後は、様式3の⑩⑪に記載した方法や取り組みを通して履修者数の向上に向けて実施していき、その結果を点検・評価し、改善につなげていく。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本学では多くの学生が地元の中小企業へと就職しており、令和6年度に本プログラムの授業を履修した学生も同様である。プログラム修了者とそうでない学生の進路に大きな違いはないが、中にはこの授業をとおしてデータサイエンスの面白さを知り、4年制大学に編入するモチベーションの一つとなった学生もいたと聞いている。本プログラムを修得した学生は就職が決まったところだが、本学では卒業生が就職した企業先へのアンケートを毎年実施しており、今後、活躍状況や企業等の評価については、そのアンケート結果により点検・評価していく。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学では、毎年、自治体関係者や高校、大学関係者、地元企業の関係者、および本学学生等のステークホルダーを集めたステークホルダーミーティングを実施している（令和5年度までは外部評価委員会として実施）。令和6年度のステークホルダーミーティングでは、地域の商工会議所の委員より、DXを徹底的に進めようと計画しているため、デジタル人材の確保のために、データサイエンスやAIに関連する授業をカリキュラムに入れて多くの学生に身に付けさせてほしいとの要望があった。今後も地域企業との連携を取りながら、本プログラムの内容を改善していきながら、本プログラムを修得する学生を増やし地域に貢献できる人材を輩出していく。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	学期末の授業アンケートの中で、「この授業の内容や方法で特に良かった点、この授業を受けて有益であった点があれば記入してください」という設問があり、「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」の理解について間接的に点検・評価を行うことができると考えられる。令和6年度に実施した本プログラムの授業については、「AIの必要性について考えることが出来たので良かったです。」や「現代のAIがどれだけ進んでいるのか、AIの真の意味を学ぶことが出来て良かった。とても面白い授業でした。」などのコメントがあり、「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」の理解が進んだことが認められる。今後、定量的に点検・評価ができるかを検討していく。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	授業内では、理論の話しだけではなく、実際にデータを使いExcelやPythonのプログラムを利用して分析を行い、その結果を考察することを何度か行うようにしている。アンケートの自由記述欄にも「後半はPCを使って実践的な学習をしました。後半の方が楽しくて、プログラミングやピボットテーブルを使用しての分析問題が、楽しくデータ分析出来ました。データに詳しい先生のセキュリティの知識なども為になりました。」という記述もあり、その成果が現れていることがわかる。今後もアンケートの結果を注視しながら、授業内でテキストにはないような最新の技術も紹介していくことで、より「わかりやすい」授業を目指すことが望まれる。

内部質保証室 発行

2024 年度 前期授業アンケート集計報告書

1. アンケートの趣旨・目的

講義を受講した学生から率直な意見を集め、大学教育や学びの実態を把握し、授業の継続的な向上活動およびより良い教育環境の構築を目的として実施している。

2. 概要

	大学	短大部	大学院
対象科目（延べ科目数）	305 科目	88 科目	26 科目
	※ただし、学外実習・海外研修・インターンシップ科目・一部のゼミ科目・集中講義・閉講科目、学科希望の指定科目については、実施対象外とした。		
回答者/対象者（延べ人数）	11,434 名 / 17,119 名	2,946 名 / 3,596 名	41 名 / 58 名
回答率	66.8%	81.9%	70.7%
実施期間	2024 年 7 月 16 日(火)～8 月 5 日(月)		
実施方法	UNIPA による WEB アンケート方式		

3. 設問項目

Q1. あなたはこの授業において、シラバスに示されている学修到達目標をどのくらい達成できましたか

達成できた・まあまあ達成できた・あまり達成できなかった・全く達成できなかった

Q2. あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか

意欲的に取り組めた・まあまあ取り組めた・あまり取り組めなかった・全く取り組めなかった

Q3. 学生に理解させようとする教員の熱意・意欲を感じましたか

とても感じた・まあまあ感じた・あまり感じなかった・全く感じなかった

Q4. この授業の内容や方法で特に良かった点、この授業を受けて有益であった点があれば記入してください（自由記述）

Q5. この授業をよりよくするための提案があれば記入してください（自由記述）

※一部学科では設問が異なります

4. 結果の要約

大学全体、学科別、講義形態別にて集計を行ったが、平均値よりスコアが大きく離れる科目は少なく、平均値 3.5 前後という比較的肯定的な結果が得られた。

また、講義形態別の集計では、「講義」という形態よりも、「演習」・「実技」・「実習」・「実験」といった形態の講義の方が、平均値が高くなる傾向があった。理論の学修だけでなく、参加型の講義で実践的な経験を積むことが本人の学修意欲や学修到達目標の達成に良い影響を与えていると考えられる。

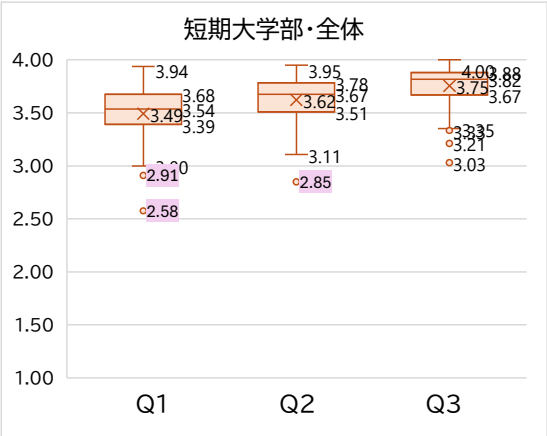
■2024年度前期授業アンケート
【短期大学部】

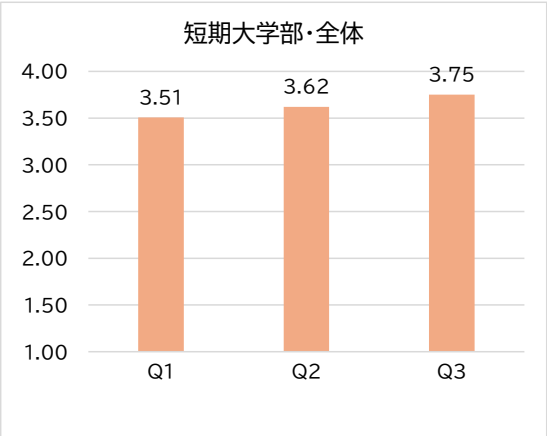
対象者	3,596	回答者	2,946	回答率	81.9%

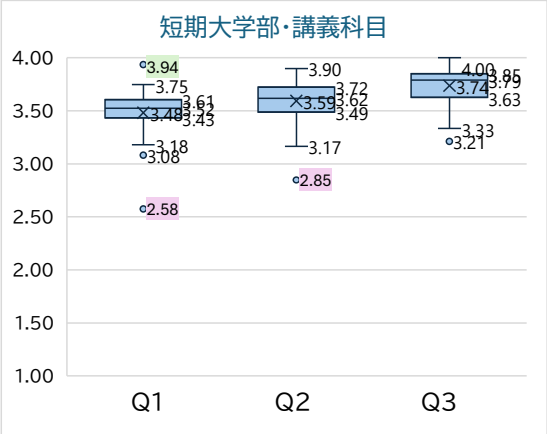
【設問・選択肢】		【平均値】
Q1 あなたはこの授業において、シラバスに示されている学修到達目標をどのくらい達成できましたか 【達成できた 4点・まあまあ達成できた 3点・あまり達成できなかった 2点・全く達成できなかった 1点】	全体	3.51
	講義	3.51
	演習	3.50
Q2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか 【意欲的に取り組めた 4点・まあまあ取り組めた 3点・あまり取り組めなかった 2点・全く取り組めなかった 1点】	全体	3.62
	講義	3.61
	演習	3.63
Q3 学生に理解させようとする教員の熱意・意欲を感じましたか 【とても感じた 4点・まあまあ感じた 3点・あまり感じなかった 2点・全く感じなかった 1点】	全体	3.75
	講義	3.75
	演習	3.75
Q4 この授業の内容や方法で特に良かった点、この授業を受けて有益であった点があれば記入してください 【自由記述】		–
Q5 この授業をよりよくするための提案があれば記入してください 【自由記述】		–

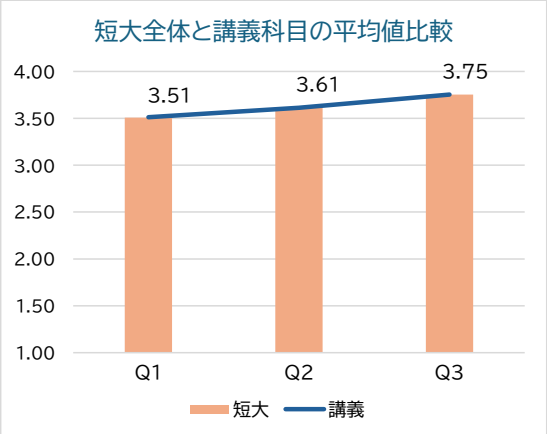
※算術平均にて集計

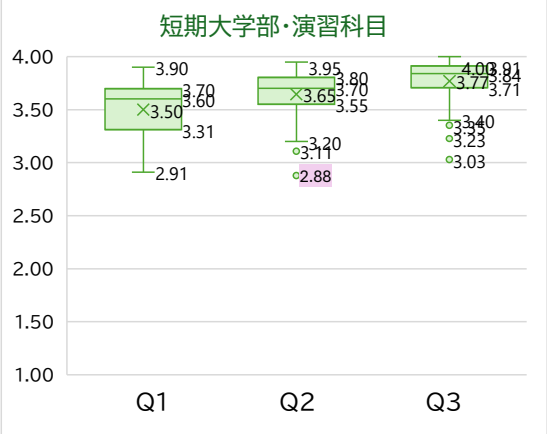
【集計グラフ】※箱ひげ図は授業ごとの平均値で集計

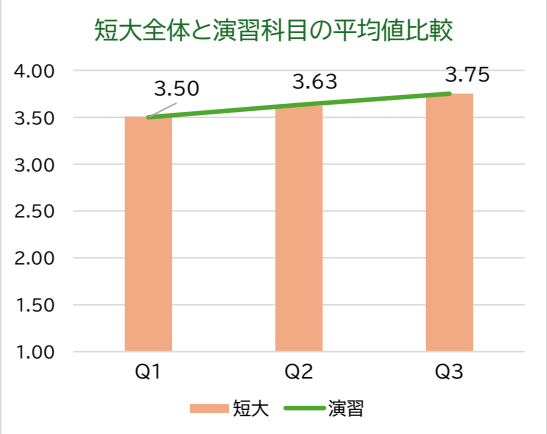












2025/3/11
発行：内部質保証室

2024年度 後期授業アンケート集計報告書

1.アンケートの趣旨・目的

講義を受講した学生から率直な意見を集め、大学教育や学びの実態を把握し、授業の継続的な向上活動およびより良い教育環境の構築を目的として実施している。

2.概要

項目	大学	短期大学部	大学院
対象科目 （延べ科目数）	273科目	81科目	20科目
回答者/対象者 （延べ人数）	8505名 /14470名	2013名 /3040名	35名 /38名
回答率	58.8%	66.2%	92.1%
実施期間	2024年12月27日（金）～2025年1月29日（水） ※一部科目では実施時期が異なります		
実施方法	UNIPAによるWEBアンケート方式		

3.設問項目 （※一部科目では設問が異なります）

Q1 あなたはこの授業において、シラバスに示されている学修到達目標をどのくらい達成できましたか
【達成できた 4点・まあまあ達成できた 3点・あまり達成できなかった 2点・全く達成できなかった 1点】

Q2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか
【意欲的に取り組めた 4点・まあまあ取り組めた 3点・あまり取り組めなかった 2点・全く取り組めなかった 1点】

Q3 学生に理解させようとする教員の熱意・意欲を感じましたか
【とても感じた 4点・まあまあ感じた 3点・あまり感じなかった 2点・全く感じなかった 1点】

Q4 この授業の内容や方法で特に良かった点、この授業を受けて有益であった点があれば記入してください
【自由記述】

Q5 この授業をよりよくするための提案があれば記入してください
【自由記述】

4.結果の要約

前期に実施した授業アンケートよりも、全体の回答率が低くなった。今回、授業日程の都合上、年末年始の休暇をはさむ実施となったことが回答率低下を招いた要因のひとつと考えられる。今後実施時期を含め、回答率を上げられるよう検討を進める。

スコアについては、前期に実施した授業アンケートとあまり変わりのない結果であり、平均値から大きく離れる科目は少なく、平均値3.5前後という比較的肯定的な結果が得られた。

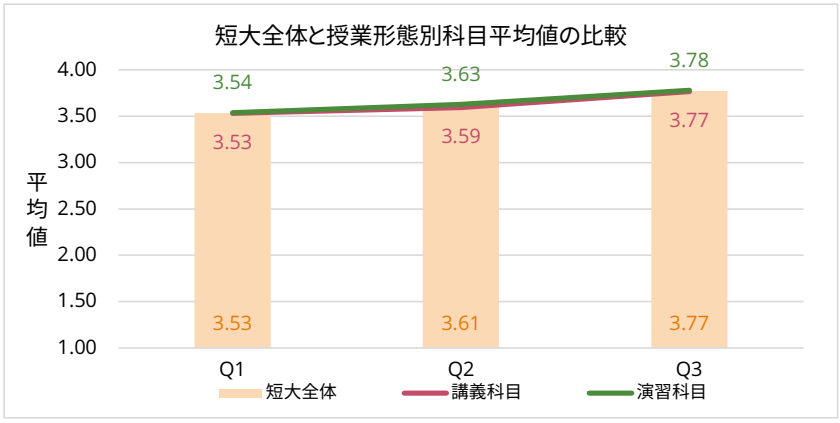
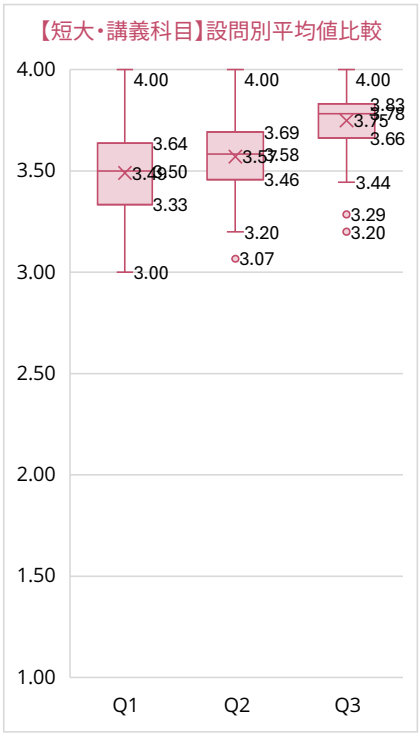
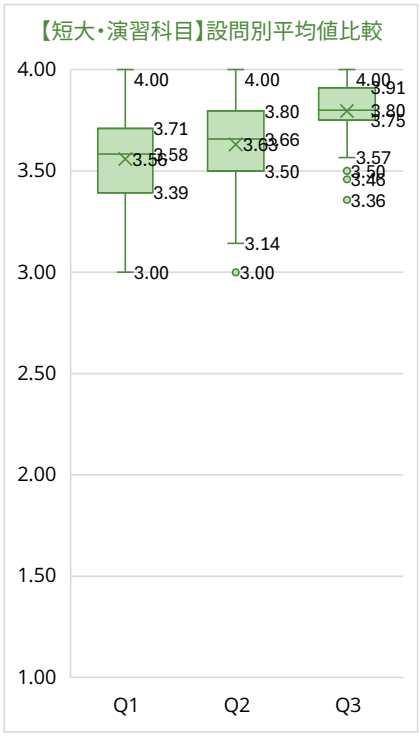
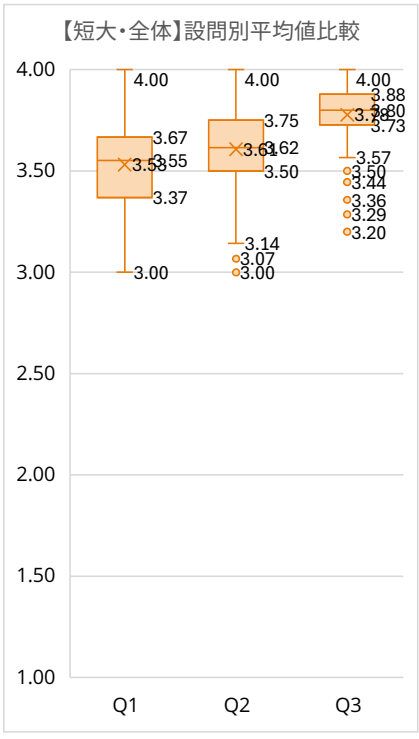
各設問を比較してみると、全体的にQ1の「学修到達目標をどれくらい達成できたか」という設問のスコアが若干低めで、Q3の「教員の熱意・意欲」のスコアが高めに出る傾向があった。今後、学修到達目標をどう学生に浸透させるかは課題のひとつであると考えられる。

その他自由記述からは、教材が充実していたこと、教員のサポートが手厚かったこと、実践的な内容が取り入れられていたことなどが肯定的な意見として挙げられていた。一方で、改善点としては、授業の進行スピードや授業環境に関するものなどが挙げられていた。今回も生成AIを使った集計を行ったが、あくまで傾向把握の参考資料であるため、詳細な意見については、UNIPAを通じて直接担当科目に寄せられた意見をご確認いただきたい。

■2024年度後期授業アンケート
【短期大学部】

対象科目数	81
対象者(延べ人数)	3,040
回答者(延べ人数)	2,013
回答率	66.2%

【設問・選択肢】	【平均値】講義	演習	全体
Q1 あなたはこの授業において、シラバスに示されている学修到達目標をどのくらい達成できましたか 【達成できた 4点・まあまあ達成できた 3点・あまり達成できなかった 2点・全く達成できなかった 1点】	3.53	3.54	3.53
Q2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか 【意欲的に取り組めた 4点・まあまあ取り組めた 3点・あまり取り組めなかった 2点・全く取り組めなかった 1点】	3.59	3.63	3.61
Q3 学生に理解させようとする教員の熱意・意欲を感じましたか 【とても感じた 4点・まあまあ感じた 3点・あまり感じなかった 2点・全く感じなかった 1点】	3.77	3.78	3.77
Q4 この授業の内容や方法で特に良かった点、この授業を受けて有益であった点があれば記入してください 【自由記述】		–	–
Q5 この授業をよりよくするための提案があれば記入してください 【自由記述】		–	–

※算術平均にて集計

【集計グラフ】※箱ひげ図は授業ごとの平均値で集計